

## トルコの金利引き下げについて

2014年6月25日

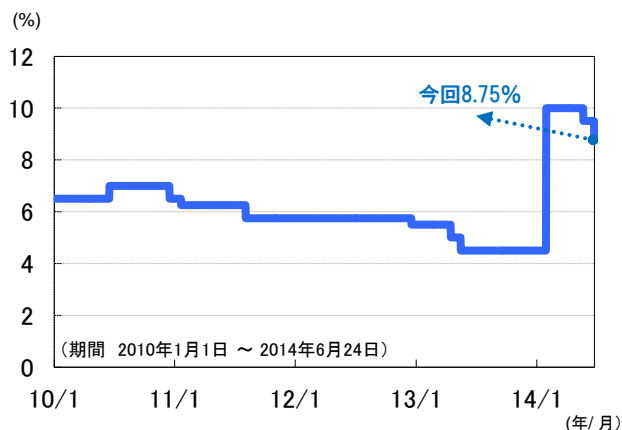
6月24日(現地時間)、トルコ中央銀行は金融政策会合を開催し政策金利である1週間物レポレートの引き下げを決定(9.5%から8.75%へ)しました。多くの市場関係者は今会合での0.5%の引き下げ幅を予想していたため、この決定を受けて短期金利は低下しました。ただ為替レートへの影響は現在のところ限定的となっています。

なお、翌日物貸出金利は12%、同借入金利は8.0%のまま据え置かれています。

## 《追加利下げ決定の経緯について》

トルコでは今年1月、自国通貨の急落に際し政策金利で5.5%と緊急かつ大幅な利上げが実施されました。その後米国のQE3縮小路線が完全に市場に定着したこと、これまでのウクライナ問題による世界経済への影響が限定的であったこと、さらには3月に行われた地方選で現政権への信任が強まったことなどから、為替レートに落ち着きが見られたため、5月には0.5%の利下げが実施されました。また8月に大統領選を控え政府からの追加利下げ要請も強まっています。

## 《トルコの政策金利の推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

## 《今後の経済、為替レートについて》

トルコでは2014年1~3月期GDP成長率が+4.3%(前年同期比)と良好で、鉱工業生産および他の生産関連指標も好調でした。インフレ率は上昇していますが、中央銀行はピークアウトし沈静化に向かうとしています。

今年の8月には大統領選が予定されています。都市部では政権批判層も多く、政治リスクが払しょくできない状況が続いています。このため政府からの利下げ圧力は続くと思われますが、追加的な措置を採ることについてはインフレ、為替レートへの影響など不安が残ります。

トルコ・リラは、足元では下値不安が後退していますが、引き続き上値の重い展開が続くとみえています。

## 《トルコ・リラの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。